

A工区地質記載シート

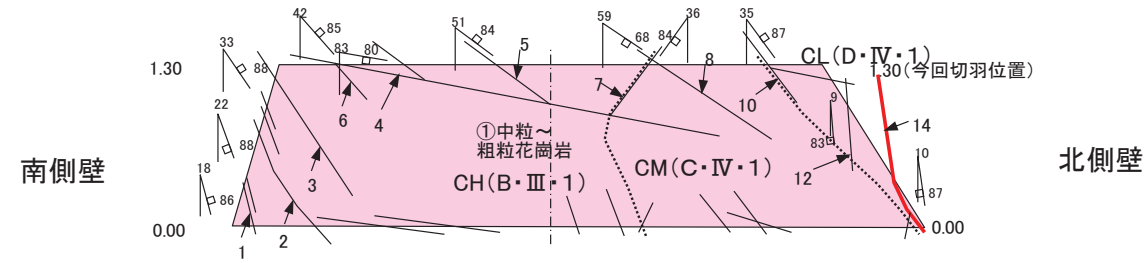
A3-請負-計測工(地質)-091009

| | | | | | | | |
|-------|----------------|----|------------------------|-------|---|--------|--|
| シート番号 | -400m避難坑 01 | 日時 | 2009/10/9 0:00~1:00 | 位置・深度 | -400m避難坑01 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m | 観察・撮影者 | |
|-------|----------------|----|------------------------|-------|---|--------|--|

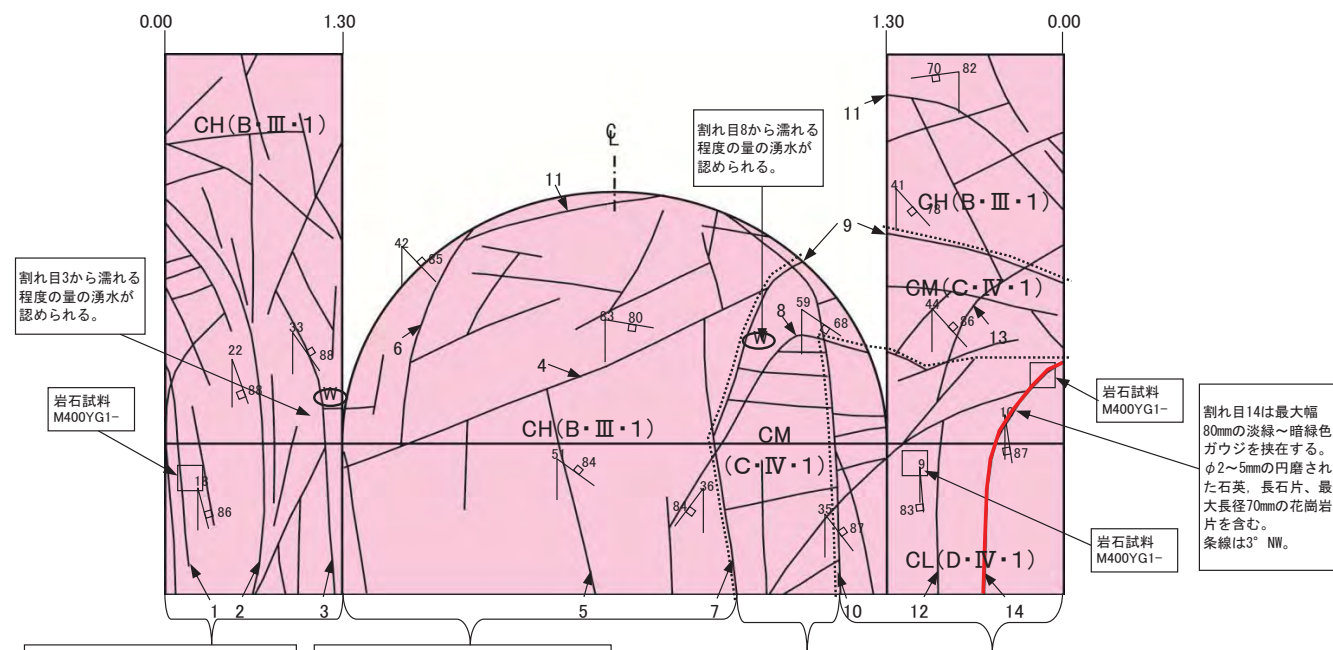
| | | |
|-------|-------|-----|
| 総括監督員 | 主任監督員 | 監督員 |
| | | |

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜



スライス断面図



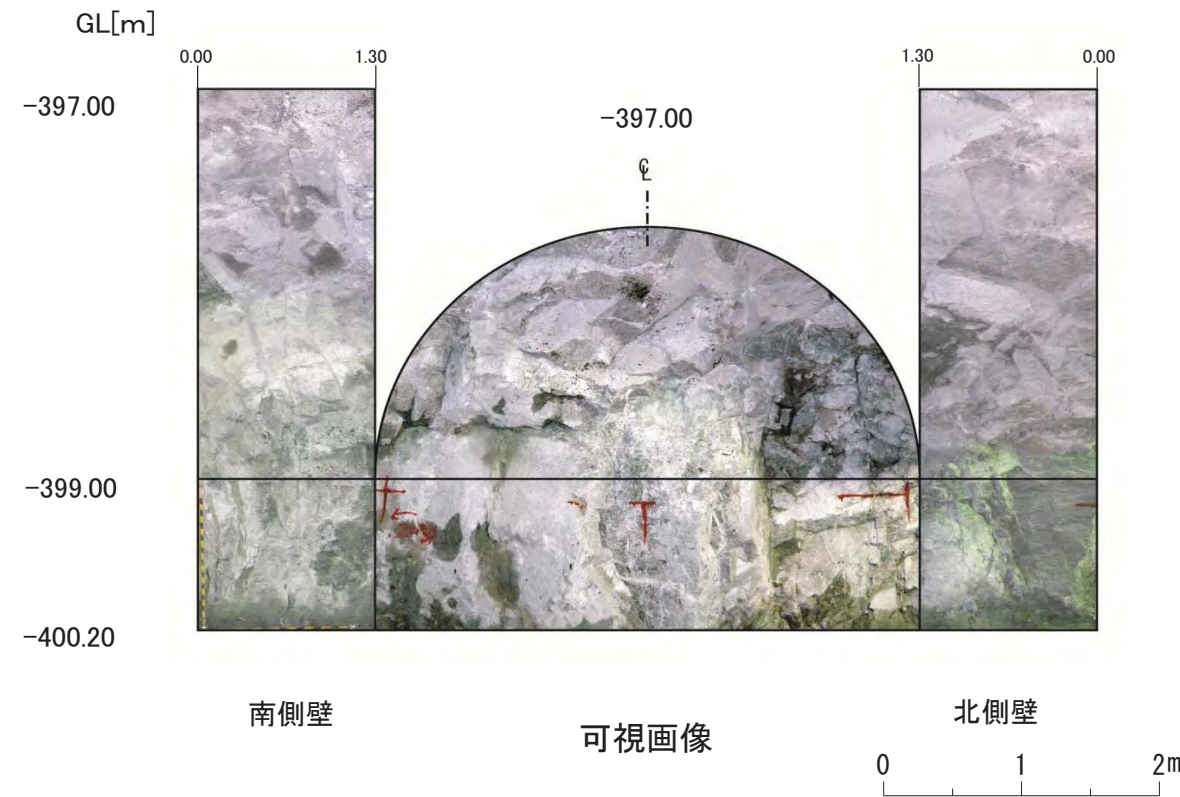
WNW走向高角度の割れ目が20~30cm間隔(部分的には6~20cm間隔)で認められる。割れ目にはカルサイトを挟み、一部ではクロライトを挟む。花崗岩は変質の程度がやや弱く、部分的に黒雲母が残存し、全体に淡緑色~淡桃色を呈する。長石は淡橙色~白色を呈するものが多い。ハンマーの打撃で金属音~少し濁った音を発する程度の硬さ。

NE、ENE~EW走向高角度の割れ目が20~40cm間隔で認められる。他に、NNW走向高角度東傾斜の割れ目が認められる。割れ目にはクロライトやカルサイトを挟み、一部では淡緑色粘土を挟む。花崗岩は変質の程度がやや弱く、部分的に黒雲母が残存し、全体に淡緑色~淡桃色を呈する。長石は淡橙色~白色を呈するものが多い。ハンマーの打撃で金属音~少し濁った音を発する程度の硬さ。

NW、EW走向高角度の割れ目が6~15cm程度の間隔で認められる。割れ目にはクロライトや淡緑色粘土を挟み、一部ではカルサイトを挟む。花崗岩は変質が認められ、有色鉱物はクロライト等に置き換わり全体に淡緑色~暗緑色を呈する。ハンマーの打撃で少し濁った音を発する程度の硬さ。

NW、EW走向高角度の割れ目が6~15cm程度の間隔で認められる。割れ目にはクロライトやカルサイトを挟み、一部では淡緑色粘土を挟む。花崗岩は変質が認められ、有色鉱物はクロライト等に置き換わり全体に淡緑色~暗緑色を呈する。ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さ。

スケッチ



可視画像

| | | | |
|----|--------------------------------|--------|--|
| 岩種 | 花崗岩 | 電研式岩級 | G.L. -397m~-399m CH/CM/CL |
| 岩相 | ①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡橙色、暗緑色、淡緑色) | RMR値 | G.L. -397m~-399m 37 G.L. -399m~-400.2m 40 |
| 風化 | α | 岩石試料番号 | M400YG1-1R (花崗岩)、M400YG1-2R (花崗岩)、 M400YG1-3R (カウジ) |
| 変質 | 2~4 | 採水試料番号 | - |
| 湧水 | 濡れる程度 | | |

特記事項

当箇所は-400m予備ステージの避難坑であり、掘進方向はN49W方向である。横坑観察は鏡面から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。

花崗岩は鏡面右側から北側壁の一部では変質を受け、黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡緑色~暗緑色を帯びている。鏡面中央から南側壁では変質の程度がやや弱く、部分的に黒雲母が残存し、長石は淡桃色~淡橙色を呈する。

割れ目はNW~WNW走向高角度とEW走向高角度が主体で、20~30cm程度の間隔(部分的には6~15cm間隔)で認められる。他にNE走向高角度の割れ目が認められる。

割れ目には全体にクロライトとカルサイトを挟み、鏡面右側から北側壁にかけては淡緑色粘土を挟み、割れ目が多く認められる。

割れ目14は最大幅80mmの淡緑~暗緑色ガウジを挟むことから断層と判断した。割れ目14では3°NWの条線が認められた。

湧水は割れ目3および8から濡れる程度の量が認められた。

岩級区分は、切羽の大半で割れ目間隔が概ね20~30cm程度で、ハンマーの打撃で金属音~少し濁った音を出す程度であることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。鏡面右側および北側壁の一部の花崗岩は、割れ目間隔が概ね6~15cm程度で、ハンマーの打撃で少し濁った音を発する程度の硬さであることからCM(C・Ⅳ・1)級と評価した。鏡面右端部から北側壁の断層付近の花崗岩は、割れ目間隔が概ね6~15cm程度で、ハンマーの打撃で濁った音を発する程度の硬さであることからCL(D・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

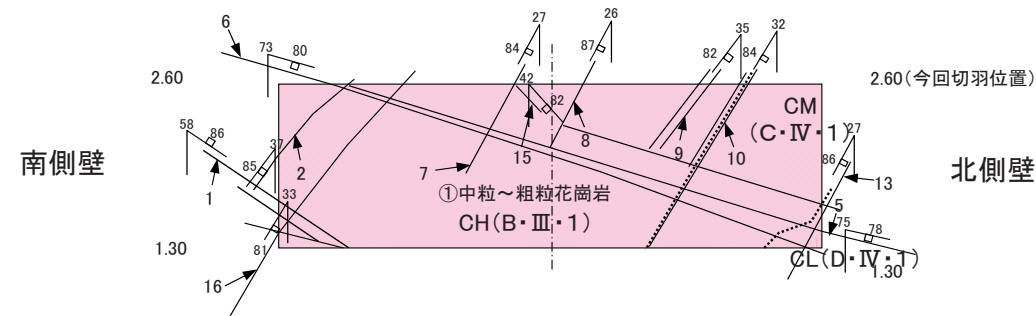
A3-請負-計測工(地質)-091011

| | | | | | | | |
|-------|-----------|----|-------------------------|-------|--|--------|--|
| シート番号 | 400m避難坑02 | 日時 | 2009/10/11 5:00~6:00 | 位置・深度 | 400m避難坑02 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m | 観察・撮影者 | |
|-------|-----------|----|-------------------------|-------|--|--------|--|

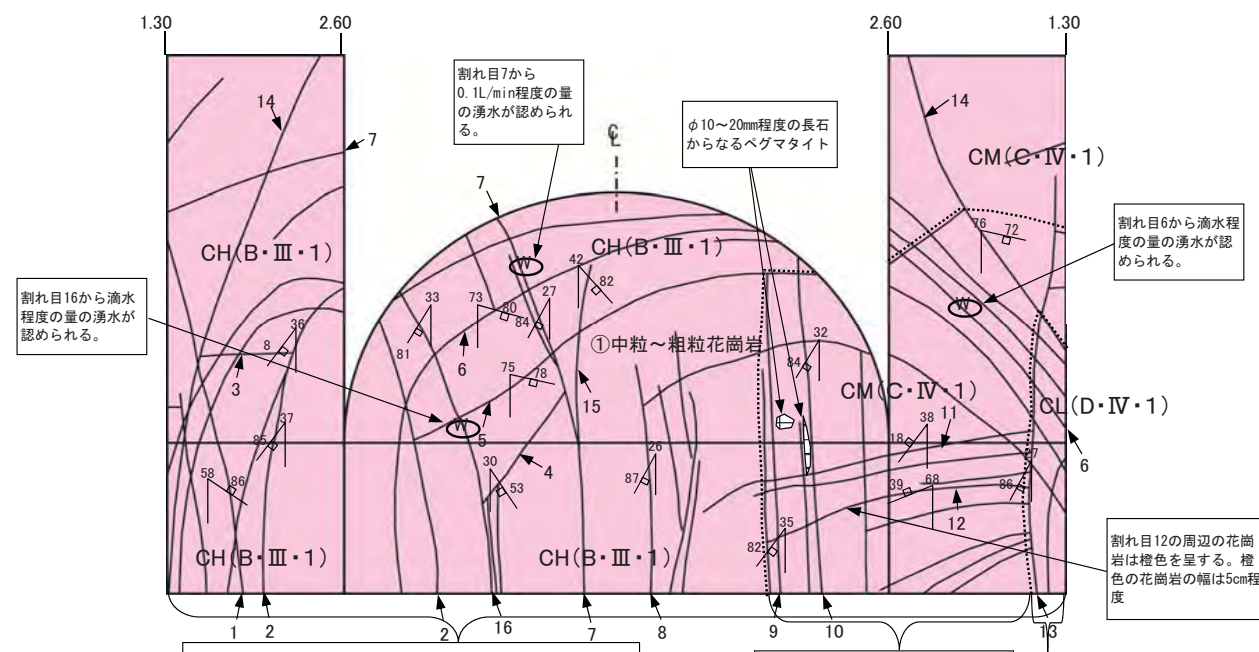
| | | |
|-------|-------|-----|
| 総括監督員 | 主任監督員 | 監督員 |
| | | |

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

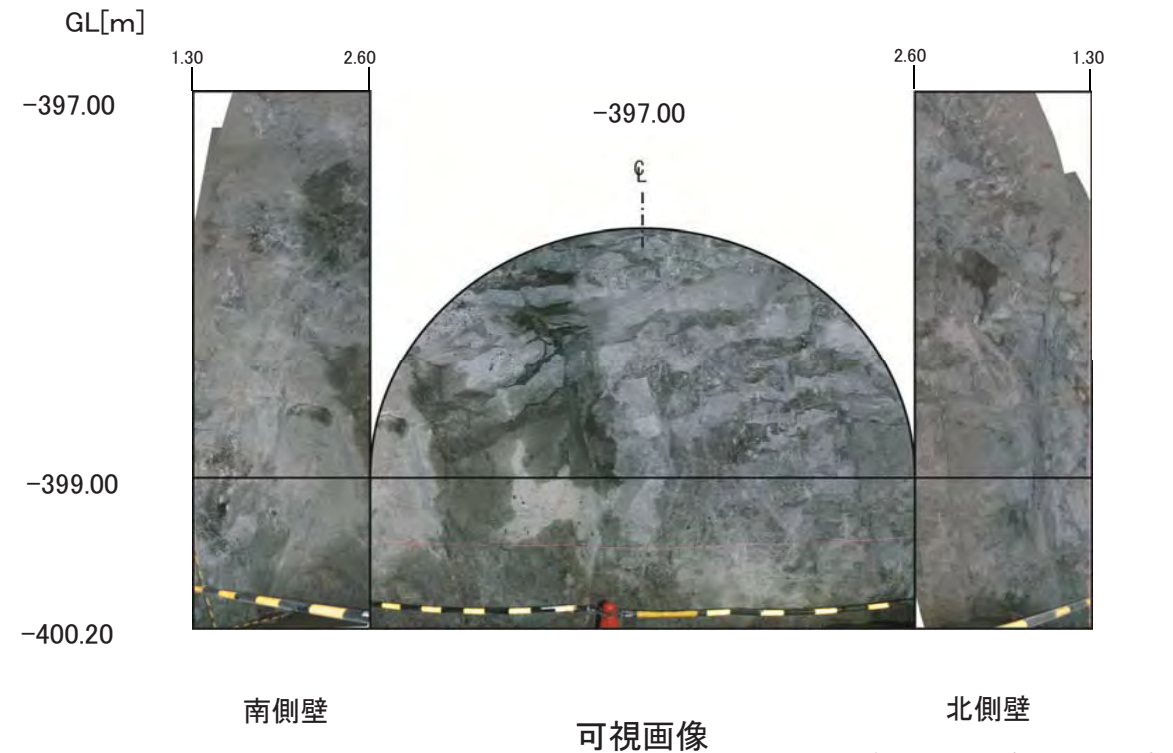
凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 ベグマタイト 割れ目の走向傾斜



スライス断面図



スケッチ



南側壁

可視画像

北側壁

NNW走向高角度東傾斜の割れ目と、NE走向高角度南傾斜の割れ目がそれぞれ、20~50cm間隔と20~30cm間隔で認められる。他に、EW走向高角度南傾斜の割れ目や、南側壁にはNNW走向低角度東傾斜の割れ目が認められる。NE走向の高角度割れ目にはクロライトやカルサイトを挟み、一部では淡緑色粘土を挟む。また、NNW走向の高角度割れ目の挟み物はクロライトを主体とする。花崗岩は変質の程度が弱く、概ね黒雲母が残存し、全体に淡緑色、淡桃色、淡灰色を呈する。長石は淡橙色~白色を呈するものが多い。ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さ。

NNE~NNW走向低~中角度の割れ目が3~10cm程度の間隔で認められる。割れ目にはクロライトやカルサイトを挟み、一部では淡緑色粘土を挟む。花崗岩は変質が認められ、有色鉱物はクロライト等に置き換わり全体に淡緑色~暗緑色を呈する。ハンマーの打撃で少し濡った音を発する程度の硬さ。

花崗岩は変質が認められ、有色鉱物はクロライト等に置き換わり全体に淡緑色~暗緑色を呈する。ハンマーの打撃で濡った音を発する程度の硬さ。

| | | | |
|----|-------------------------|--------|--|
| 岩種 | 花崗岩 | 電研式岩級 | G.L. -397m~-399m CH/CM/CL G.L. -399m~-400.2m CH/CM/CL |
| 岩相 | ①中粒～粗粒花崗岩 (暗緑色、淡緑色、淡灰色) | RMR値 | G.L. -397m~-399m 44 G.L. -399m~-400.2m 50 |
| 風化 | α | 岩石試料番号 | M400YG2-1 (花崗岩) |
| 変質 | 2~3 | 採水試料番号 | - |
| 湧水 | 0.1L/min程度 | | |

特記事項

当箇所は400m予備ステージの避難坑であり、掘進方向はN49W方向である。横坑観察は鏡面から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩は鏡面右側から北側壁の一部では変質を受け、黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡緑色~暗緑色を帯びている。鏡面中央から南側壁では変質の程度が弱く概ね黒雲母が残存しており、花崗岩は淡緑色、淡桃色、淡灰色を呈する。割れ目は20~50cm程度の間隔のNNW走向高角度東傾斜と20~30cm程度の間隔のNE走向高角度南傾斜が主体である。他にEW走向低角度やNNE~NNW走向低~中角度の割れ目が認められる。NE走向高角度の割れ目は全体にクロライトとカルサイトを挟み、一部では淡緑色の粘土を挟んでいる。またNNW走向高角度の割れ目の挟み物はクロライトが主体である。

湧水は割れ目6、16から滴水程度の量、割れ目7からは0.1L/min程度の量の湧水が認められた。岩級区分は、鏡面と南側壁及び天端付近は、割れ目の間隔が20~50cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。鏡面の右側から西側壁および東側壁の一部は、割れ目間隔が概ね3~10cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音を出す程度であることからCM(C・Ⅳ・1)級と評価した。北側壁の一部では割れ目間隔が概ね3~10cm程度で、ハンマーの打撃で濡った音を立てる程度の硬さであることからCL(D・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

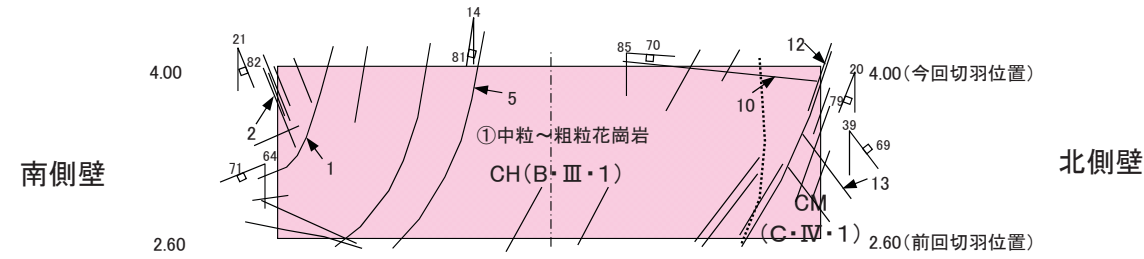
A3-請負-計測工(地質)-091013

| | | | | | | | |
|-------|----------------|----|-------------------------|-------|---|--------|--|
| シート番号 | -400m避難坑 03 | 日時 | 2009/10/13 4:40~5:40 | 位置・深度 | -400m避難坑03 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m | 観察・撮影者 | |
|-------|----------------|----|-------------------------|-------|---|--------|--|

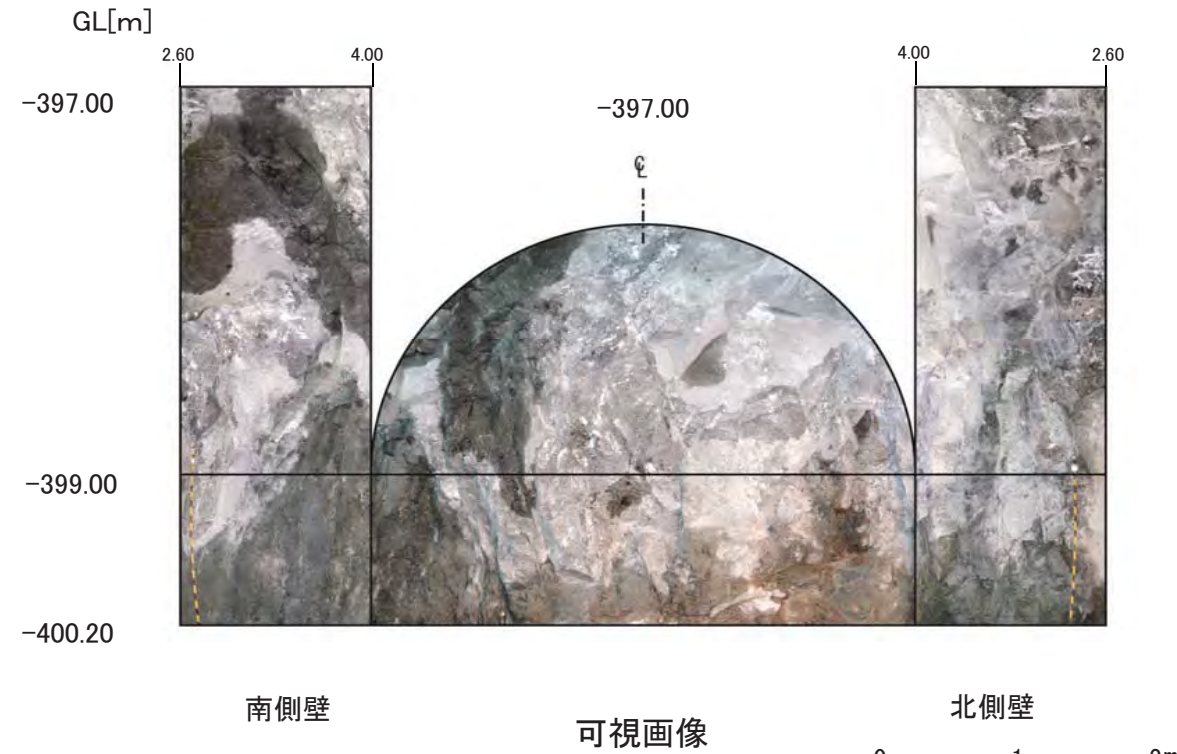
| | | |
|-------|-------|-----|
| 総括監督員 | 主任監督員 | 監督員 |
| | | |

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

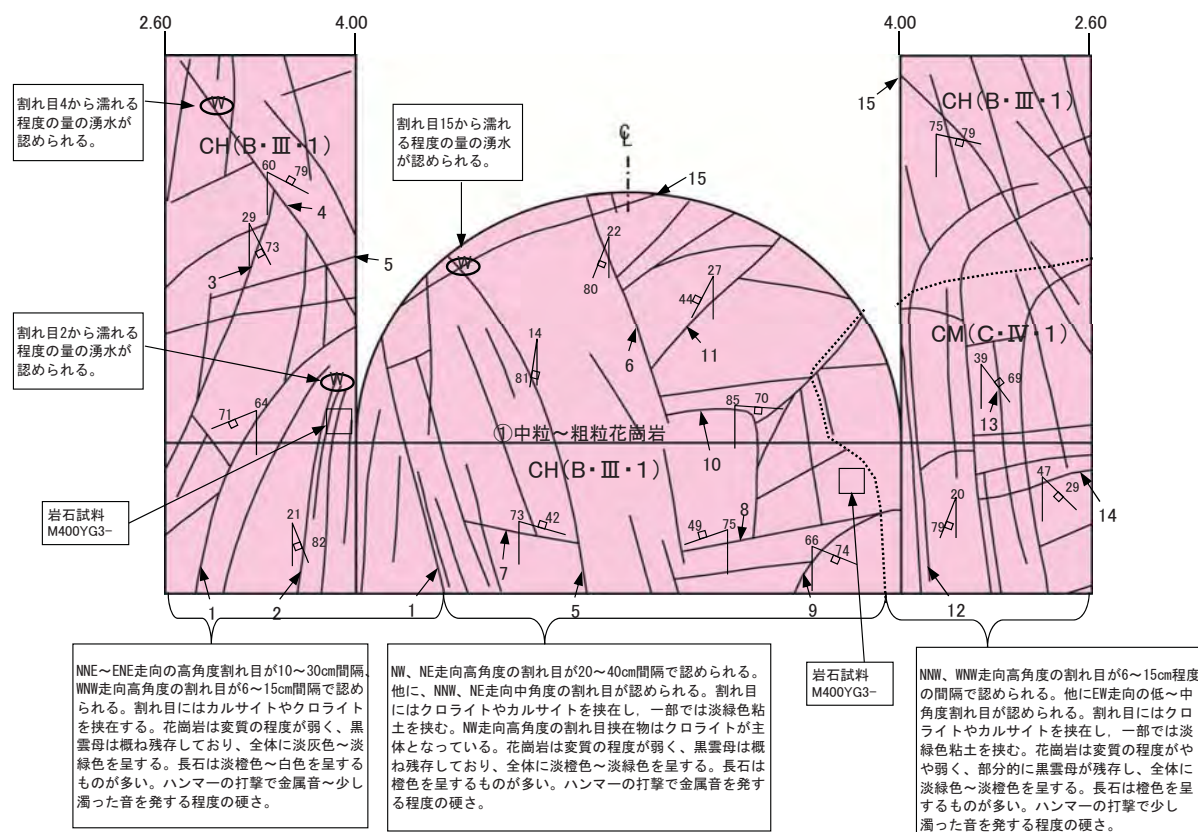
| | | | | | |
|----|-----|----|-----|--------|----------|
| 凡例 | 花崗岩 | 湧水 | 割れ目 | 岩級区分境界 | 割れ目の走向傾斜 |
|----|-----|----|-----|--------|----------|



スライス断面図



可視画像



スケッチ

| | | | |
|----|----------------------------|--------|--|
| 岩種 | 花崗岩 | 電研式岩級 | G.L. -397m~-399m CH/CM |
| 岩相 | ①中粒~粗粒花崗岩 (淡灰色、淡橙色、淡緑色) | RMR値 | G.L. -397m~-399m 52 G.L. -399m~-400.2m 55 |
| 風化 | α | 岩石試料番号 | M400YG3-1R (花崗岩)、M400YG3-2R (花崗岩) |
| 変質 | 2~3 | 採水試料番号 | - |
| 湧水 | 濡れる程度 | | |

特記事項

当箇所は-400m予備ステージの避難坑であり、掘進方向はN49W方向である。横坑観察は鏡面から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。
花崗岩は鏡面、南側壁、北側壁の天端付近では変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存しており、全体に淡灰色~淡緑色を呈する。北側壁では変質の程度がやや弱く、部分的に黒雲母が残存し、全体に淡緑色~淡橙色を呈する。長石は橙色を呈するものが多い。ハンマーの打撃で金属音を少し濁った音を出す程度の硬さ。
割れ目はNW~NNW走向高角度NE走向高角度が主体で、10~40cm程度の間隔で認められる。他にNNW走向高角度、NE走向中角度、EW走向低~中角度の割れ目が認められる。
割れ目には全体にクロライトとカルサイトを挟んでおり、部分的に淡緑色粘土を挟む。NW走向高角度の割れ目挟在物はクロライトが主体となっている。

湧水は割れ目2および15から濡れる程度の量が認められた。
岩級区分は、鏡面、南側壁、北側壁の天端付近では割れ目間隔が概ね20~40cm程度で、ハンマーの打撃で金属音~少し濁った音を出す程度の硬さであることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。北側壁の花崗岩は、割れ目間隔が概ね6~15cm程度で、ハンマーの打撃で少し濁った音を立てる程度の硬さであることからCM(C・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

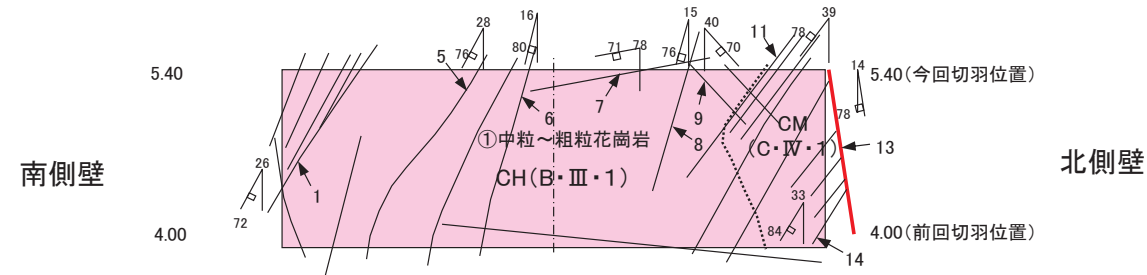
A3-請負-計測工(地質)-091013

| | | | | | | | |
|-------|----------------|----|---------------------------|-------|---|--------|--|
| シート番号 | -400m避難坑 04 | 日時 | 2009/10/13 22:50~23:50 | 位置・深度 | -400m避難坑04 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m | 観察・撮影者 | |
|-------|----------------|----|---------------------------|-------|---|--------|--|

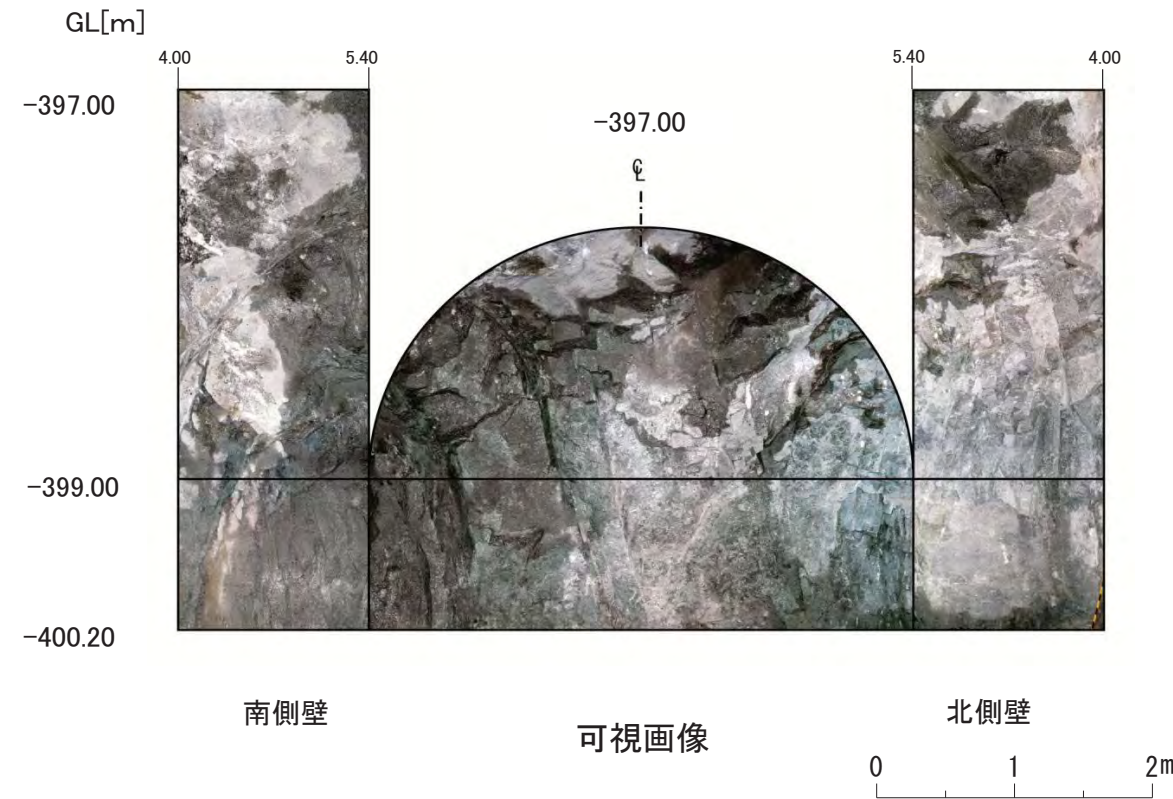
| | | |
|-------|-------|-----|
| 総括監督員 | 主任監督員 | 監督員 |
| | | |

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

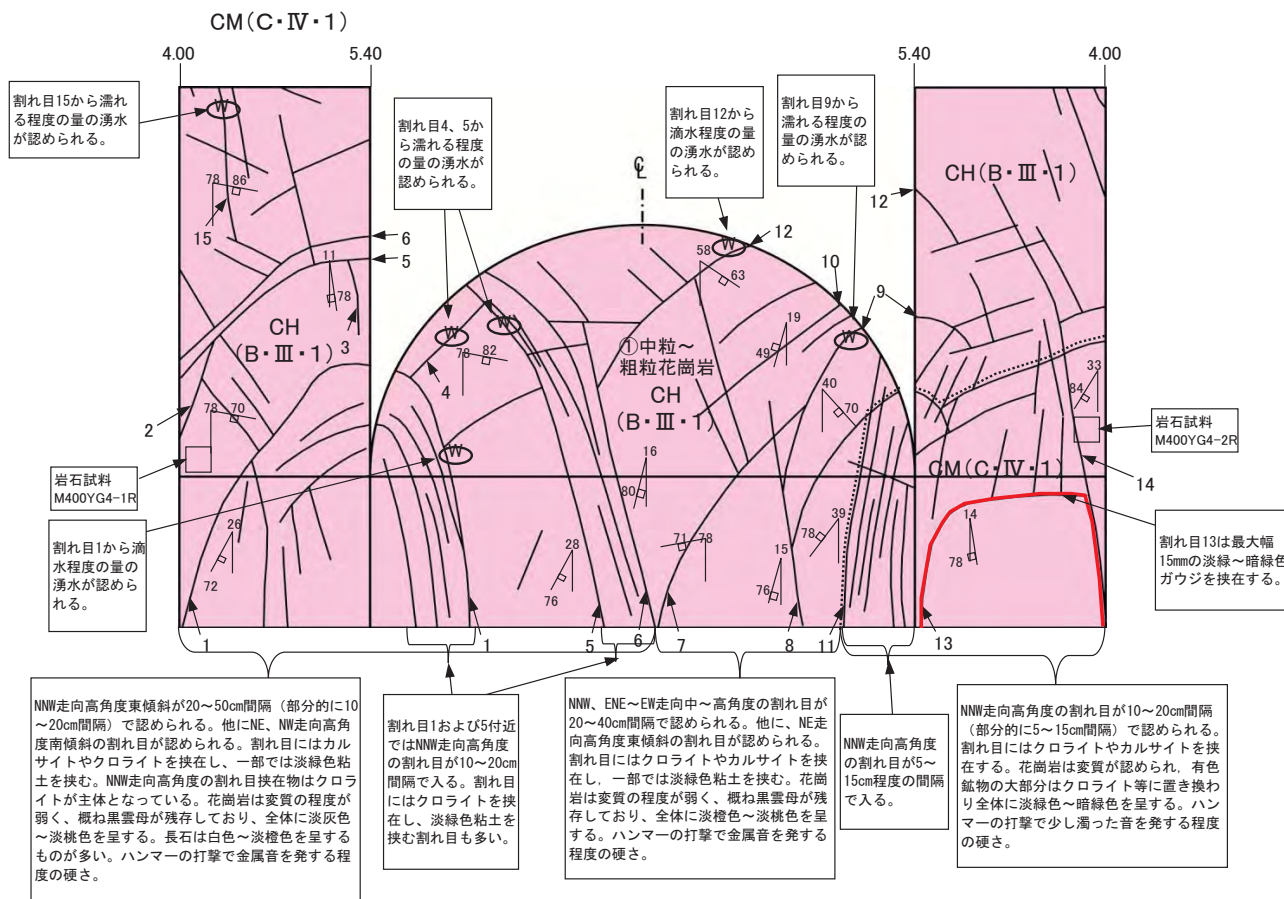
凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜



スライス断面図



可視画像



スケッチ

| | | | | |
|----|------------------------------------|--------|--|----------------|
| 岩種 | 花崗岩 | 電研式岩級 | G.L. -397m~-399m G.L. -399m~-400.2m | CH/CM CH/CM |
| 岩相 | ①中粒~粗粒花崗岩 (淡灰色、淡桃色、淡橙色、暗緑色、淡緑色) | RMR値 | G.L. -397m~-399m G.L. -399m~-400.2m | 42 38 |
| 風化 | α | 岩石試料番号 | M400YG4-1R (花崗岩)、M400YG4-2R (花崗岩) | |
| 変質 | 2~3 | 採水試料番号 | - | |
| 湧水 | 滴水程度 | | | |

特記事項

当箇所は-400m予備ステージの避難坑であり、掘進方向はN49W方向である。横坑観察は鏡面から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。花崗岩は鏡面の大部分、南側壁、北側壁の天端付近では変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存しており、全体に淡灰色~淡桃色を呈する。鏡面の右端部から北側壁の下半付近にかけては変質が認められ、有色鉱物の大部分はクロライト等に置き換わり、全体に淡緑色~暗緑色を呈する。割れ目はNW~NNW走向高角度が主体で、20~50cm程度の間隔で認められる。他にNE走向高角度、ENE~EW走向中~高角度の割れ目が認められる。また、局所的に割れ目間隔が狭い箇所が認められ、割れ目1、5付近では10~20cm間隔、割れ目11付近では5~15cm間隔で割れ目が入っている。

割れ目には全体にクロライトとカルサイトを挟んでおり、部分的に淡緑色粘土を挟む。NNW走向高角度の割れ目挟持物はクロライトが主体となっている。割れ目13は最大幅15mmの淡緑~暗緑色のガウジを挟持することから断層と判断した。湧水は割れ目1、12から滴水程度の量、割れ目4、5、9、15から濡れる程度の量が認められた。岩級区分は、鏡面の大部分、南側壁、北側壁の天端付近では割れ目間隔が概ね20~50cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を発する程度の硬さであることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。鏡面の右端部から北側壁の下半付近にかけての花崗岩は、割れ目間隔が概ね5~20cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音を立てる程度の硬さであることからCM(C・Ⅳ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

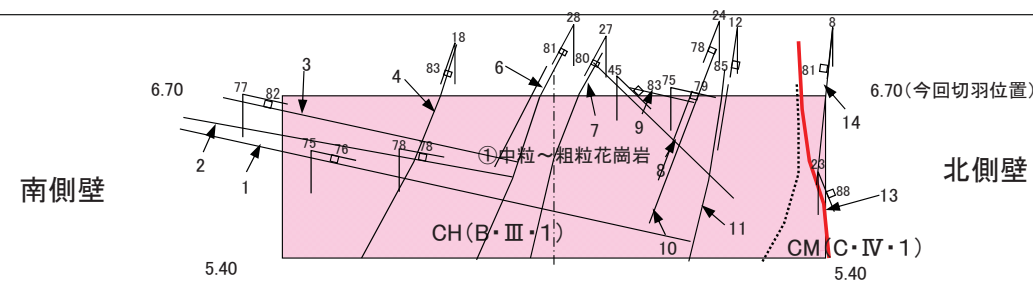
A3-請負-計測工(地質)-091014

| | | | | | | | |
|-------|-----------|----|---------------------------|-------|---|--------|--|
| シート番号 | 400m避難坑05 | 日時 | 2009/10/14 11:00~12:00 | 位置・深度 | -400m避難坑05 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m | 観察・撮影者 | |
|-------|-----------|----|---------------------------|-------|---|--------|--|

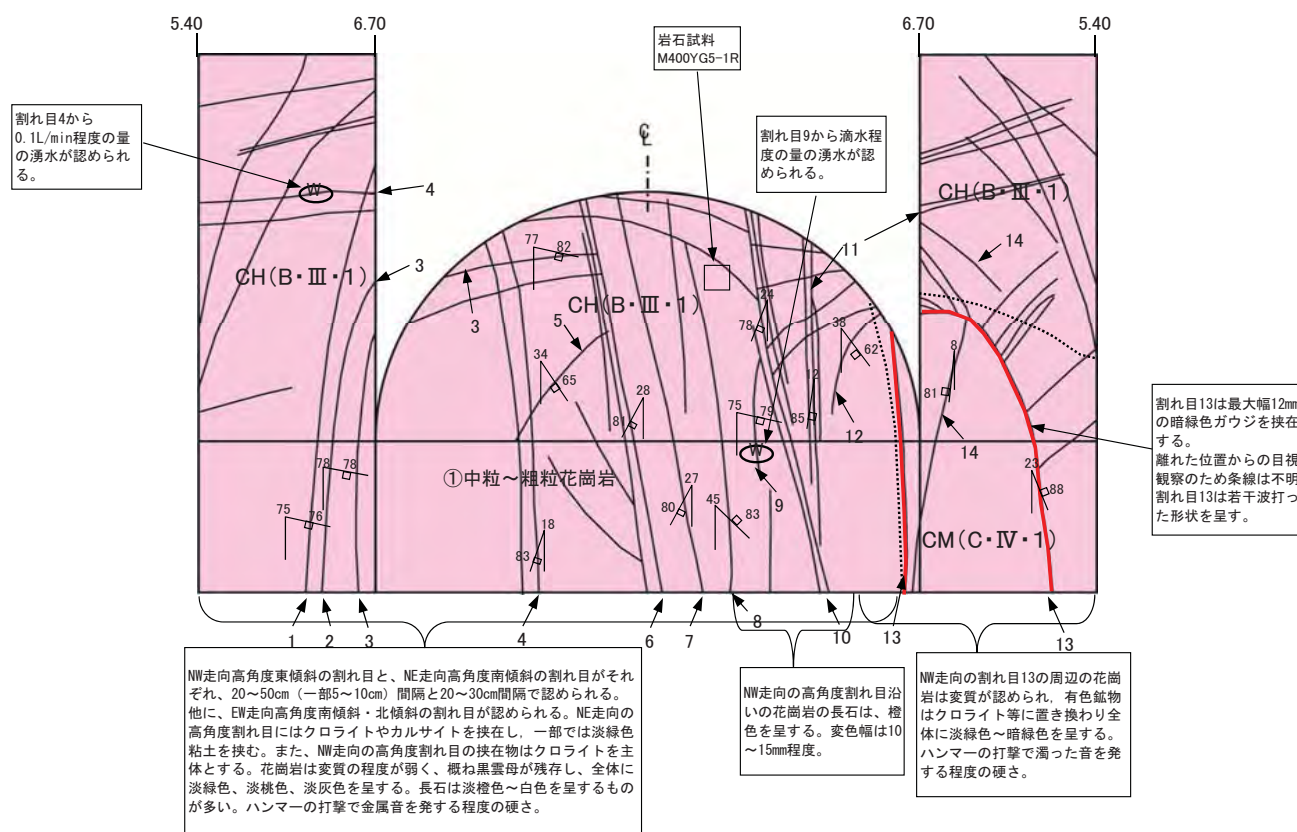
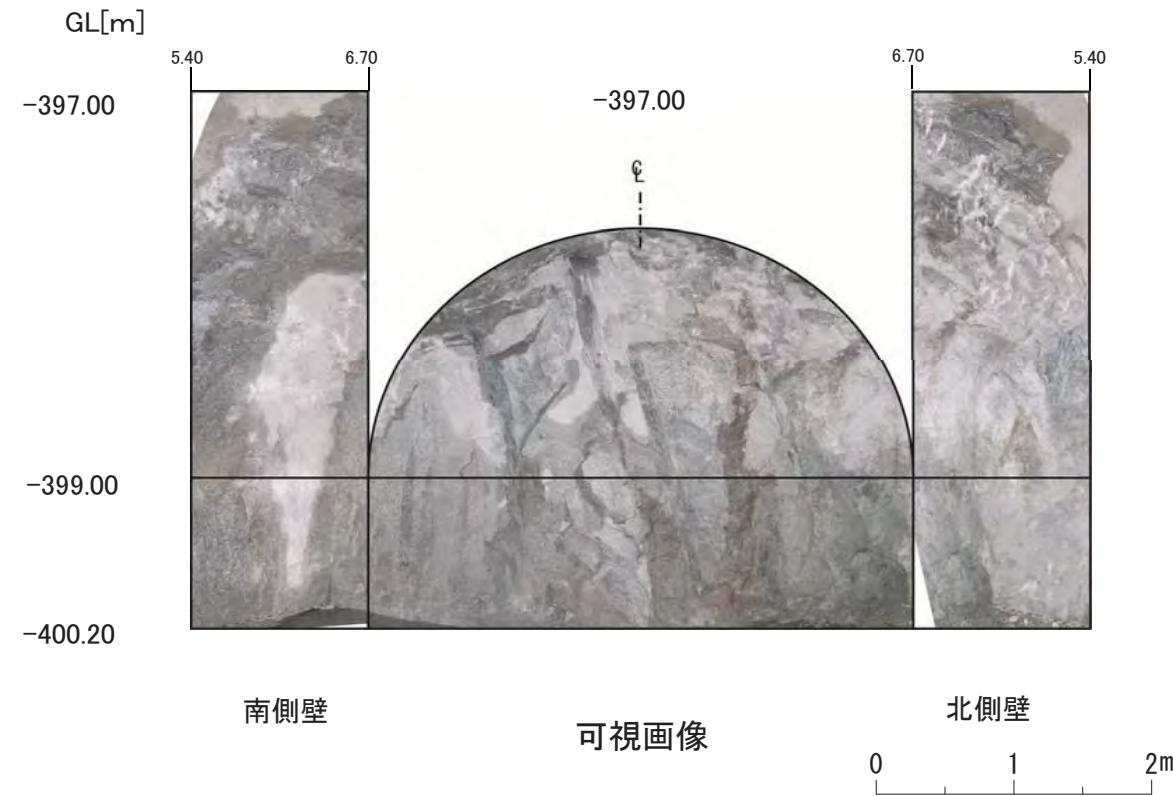
| | | |
|-------|-------|-----|
| 総括監督員 | 主任監督員 | 監督員 |
| | | |

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 断層 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜



スライス断面図



スケッチ

| | | | |
|----|-------------------------------|--------|--|
| 岩種 | 花崗岩 | 電研式岩級 | G.L. -397m~-399m CH/CM |
| 岩相 | ①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、暗緑色、淡緑色) | RMR値 | G.L. -397m~-399m 41 G.L. -399m~-400.2m 41 |
| 風化 | α | 岩石試料番号 | M400YG5-1R (花崗岩) |
| 変質 | 2~4 | 採水試料番号 | - |
| 湧水 | 0.1L/min程度 | | |

特記事項

当箇所は400m予備ステージの避難坑であり、掘進方向はN49W方向である。横坑観察は鏡面から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。
花崗岩は鏡面右側から北側壁までの割れ目13周辺では、変質により黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わり花崗岩は淡緑色~暗緑色を帯びている。また、割れ目9、10、11周辺の花崗岩は橙色を呈する。鏡面中央から南側壁では変質の程度が弱く、概ね黒雲母が残存し、長石は淡桃色~淡灰色を呈する。
割れ目はNW走向高角度とNE走向高角度が主体で、20~50cm程度の間隔で認められる。
NE走向の割れ目は全体にクロライトとカルサイト、淡緑色の粘土を挟む。また、NW走向の割れ目はクロライトが主体で、淡緑色の粘土は認められないか、あっても厚さは薄い。

割れ目13は最大幅12mmの暗緑色のガウジを挟むことから断層と判断した。
湧水は割れ目4から0.1L/min程度、割れ目9から滴水程度の量が認められた。
岩級区分は、切羽の大半で割れ目間隔が概ね20~50cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を出す程度であることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。鏡面右側から北側壁の一部の花崗岩は、割れ目間隔が概ね6~15cm程度で、ハンマーの打撃で少し濁った音を立てる程度の硬さであることからCM(C・Ⅳ・1)級と評価した。